

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和5年度後期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

杉本 光公

信州大学全学教育センター 点検評価・FD 委員長

金沢 謙太郎

1. 点検の概要

令和6年3月19日（火）に実施された、令和5年度第7回教育企画委員会共通教育部会において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要な科目「データサイエンス（以下、DS）リテラシー」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当センターの平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- ・ 前期・後期の後半に行われる再履修者用の科目での単位修得も含め、令和5年度入学者2,045名に対する単位修得率は94.8%であった。
- ・ DSリテラシーでは、各回で実施される小テストと記述課題だけで単位を修得することができるが、授業に対する良い質問等をするだけでも加点する制度がある。令和5年度においては、全体の約3.5%（約70名）の学生が、この制度を活用することで単位を修得できた。
- ・ 学生に対するアンケート結果では、前期と同じく、次の3点に関する知見を得た。
 - DSリテラシーの良い点に関する意見では、「自分の好きな時間に取り組める」などのオンデマンドに関する意見や、「今後必要となる知識が得られる」などの知識獲得に関する意見があった。
 - DSリテラシーの改善点に関する意見では、オンデマンド授業のためか「資料が多い」「動画説明がもっと欲しい」という意見があった。小テスト問題や内容の難しさに関する意見もあった。
 - 「学習方法に関する後輩へのアドバイス」として、「自分で調べる」「自分で理解する」といった主体的学習に関するアドバイスや、「(小テストを受験する前に) 確認問題を解く」といったアドバイスがあった。
- ・ 「資料が多い」という意見に関して、本学で実施している「学生による授業アンケート」の結果を確認したところ、学習時間が極端に長くなっていることは確認できなかった。そのため、資料が多いとは言い切れないと判断した。

その後、平井准教授から「令和6年度においても、令和5年度と同様の対応を行っていくこと」や「上記改善点への対応として、学習方法や学習手順を説明する動画などを提供する予定である」旨の発言があり、部会員でそれを確認した。

2. 評価の概要

前期に引き続き、すべての課題に取り組み、提出することで単位を修得できる状況であったことから、特に大きな問題点は見当たらなかった。上記改善点への対応に加え、「指定した期限までに課題に取り組ませる仕掛け」については引き続き検討を行い、各期前半における単位修得率の向上を目標として、今後も授業運営を行っていくことを確認した。

以上